

# 米国ポートランド市に学ぶまちづくり

自分たちの街は自分たちでつくる

狛江市議会議員 山田たくじ

2016年8月25日

# 米国ポートランド市に学ぶまちづくり

## 自分たちの街は自分たちでつくる

### 1. はじめに

2016年8月11日～18日、米国太平洋岸いわゆるパシフィック・ノースウエストと称される地域に位置するオレゴン州ポートランド市をまちづくりを学ぶため視察した。主な観点として大きく4つのポイントを持ち、日常のまちを視るとともに、ポートランド市の職員にも直接ヒヤリングを行ったり、各種イベントや行政の主催する説明会にも参加するなどし、自ら体験してみた。

大きなポイントは次の4つである。

1. ヒューマンサイズのまち、2. グリーンインフラ（GI）、3. 地産地消を大切にす  
るまち、4. 行政と市民の関係

### ポートランド市の概要

ポートランド市はオレゴン州最大の都市で人口約60万。日本で言えば、中核市並み、八王子市や船橋市といった人口である。世界的な企業に育ったNIKEや、アウトドアスポーツのColumbia Sportswearの本社、adidas社の北米本部があるほか、インテルの研究機関等が複数立地する。その一方で自然に恵まれ、ウィラメット川やそれが合流するコロンビア川のほか、郊外には品質レベルの高いワインを醸造するワイナリーも多数ある。また、フット山もポートランドを代表する風景になっている。

ポートランド市は上記の自然を大切にすため、都市の開発を制限することに注力して来た。それが有名な「都市成長境界線（Urban Growth Boundary（UGB）」である。これは都市成長境界線の外は農地や森林として残し、開発から守るという一種の都市計画上の自主規制と言える。この都市成長境界線の外の農場から毎日新鮮な野菜、果物、畜産物が市内に届けられるという理想的な環境となっている。

市内にはビール工房やコーヒーショップが多いのも特徴と言える。また、ナショナルチェーンもあるが、地元資本の店が多いのも特長である。それに加えオレゴン州には消費税がないことから、お金が地元へ落ちる地域内乗数はかなり高いと推察される。

### 2. ヒューマンサイズのまちポートランド

ポートランド市は1970年代に市内中心部ウィラメット川沿いを走るフリーウェイ（高速道路）を取り壊し、市民の憩いの場となるトム・マッコール・ウォーターフロント・パークを整備した。そして、現在は空港から市内に延びるMAXライトレール、ポートランド・ス

トリートカー、路線バスと公共交通機関が市内を縦横に通っており、車に頼らずに様々なところへ移動することが出来るようになっている。



これらの公共交通の利用料は2時間の乗り放題のチケットで2.5ドル、一日乗り放題のもので5ドルと比較的抑えられている。

通りの名は南北の通りは North East、North West、South East、South West の何番と判り易い。後は東西に走る通りの名は覚えなくてはならないが、これらの交差するところで目的地を探すようになっている。我が国で言えば、代表的なのは札幌市の例に近い。

また、同市は全米一の自転車のまちとして知られる。市内主要道路には自転車用レーンが設けられており、自転車が走る上で安全な環境が整備されている。これらは広い幅員の道路を持てる米国特有の事情もあるとは言え、ヒューマンファーストの哲学があることは否定出来ない。ポートランド市の自転車通勤率は、米国勢調査局の2008年-2012年の調査によれば6.1%と全米の0.6%の約10倍となっている。



また、自分のような観光客にはポートランド市の運輸局が、運営主体となるシェアサイクルの代表的企業 Motivate と組み、NIKE をスポンサーとする BIKETOWN (シェアサイクル) を利用するのが市内各所を訪ね歩く上で公共交通機関との相乗効果が大きく便利であった。これはポートランド市が本年7月から始めたものである。1,000台の自転車が市内100箇所のポートで乗り降り自由という大変使い勝手の良いものである。一日12ドルである。

## 【番外編：民泊 Airbnb に泊まってみて】

Airbnb（エアビーアンドビー）とは、宿泊施設・民宿を貸し出す人向けのウェブサイトである。世界 192 カ国の 33,000 の都市で 80 万以上の宿を提供している。2008 年 8 月に設立され、サンフランシスコに本社を置き、非公開会社 Airbnb, Inc.により所有、運営されている。（出典：フリー百科事典「ウィキペディア（Wikipedia）」）

我が国でも 2020 年の東京オリンピック・パラリンピック等の開催を控え、また同年の来日観光客数 4,000 万人を目指す政府の方針などから、ホテルの不足が問題となっており、民泊をめぐる議論が起こっている。そのような中、いずれは旅館業法が改正され住宅地域でもホームステイ型の民泊が解禁されることが予想されるため、狛江市での参考にするため、Airbnb を通じての宿泊を体験してみた。

利用するには、まずインターネット上で登録を行う必要がある。その際、当初は有効な電子メールアドレス及び有効な電話番号がユーザプロフィールを作成する上での唯一の条件であったが、2013 年からは政府が発行する身分証明書（海外の場合はパスポート）のスクリーンが必要になっている。利用する側は一泊当たりの価格、施設、ハウスール、画像、近辺についての詳細な情報と、過去の利用者のユーザーレビューを参考にしながら宿泊先を決める。宿泊先については、即予約が可能な物件と、宿泊先の承認が必要な物件に分かれている。支払はすべてオンラインで済ませることになり、現地における現金決済は一切ない。

自分の場合は、現地の人との交流が目的の一つにあったので、交流が図れそうな先を選んだ。ある宿泊先では一緒に朝食を摂ってくれ、会話が弾んだ。総じて、その宿泊先の近辺やまちのみどころの紹介にはホスト側が熱心で、本人が直接説明してくれる。その他にもプロシュアーやパンフレットの類が豊富に揃えられており、大変助かる。今まではホテルしか利用したことがなかったので、大変新鮮で、かつ有意義であった。

Airbnb のシステムでは登録したメールアドレスに、宿泊後ホストからのメールが届く。また、利用者側も Airbnb から宿泊しての感想（レビュー）を求められる。事業の特性上、これらが公表され評価システムが形成される。ただし、メールには公表されない個人的な部分もあり、持参したお土産への感謝の気持ちなども記されていて感心した。



### 3. ポートランドのグリーンインフラ (GI)

昨今、日本でも「グリーンインフラ (GI)」という言葉が耳にするようになった。これは欧米で10年ほど前から提唱されている概念でここ2~3年で我が国でも聞かれるようになったものである。

グリーンインフラとは「自然のもつ多様な機能を積極的に活用した社会資本整備や土地利用、管理の概念。生物の生息・生育場の提供や防災・減災、気温上昇の抑制、食料生産など、幅広い自然の機能を生かして、地域経済や生活の質の向上などにつながる国土づくりを推進する。」とされている。(出典:「いざ!グリーンインフラ」日経コンストラクション 2016年7月25日号)

相次ぐ台風やゲリラ豪雨への対策、また近年の夏の(ヒートアイランド現象に助長される)過度の暑さ対策、巨大地震時の避難場所の確保、また環境教育や快適な居住環境の創造等の観点から、狛江市においてもグリーンインフラは重要なものとの認識である。その参考にしたいと考えた。

ポートランド市は全米屈指の環境都市と言われ、グリーンインフラへの意識も高い。

まずはパールディストリクトにある3つのタイプの異なる都市公園を視察した。

#### ・ Jamison Square



親水公園である。訪れた日もポートランドにしては暑い日であったが、多くの親子連れで賑わっていた。緑陰も造られており、暑い日にも憩える環境が素晴らしかった。

#### ・ Tanner Springs Park



ここはかつて周辺を流れていたハケの水を集めた川が暗渠になったため、それを一部取り込み、湿地帯を形成した景観と環境・歴史教育を重視した形の公園であった。

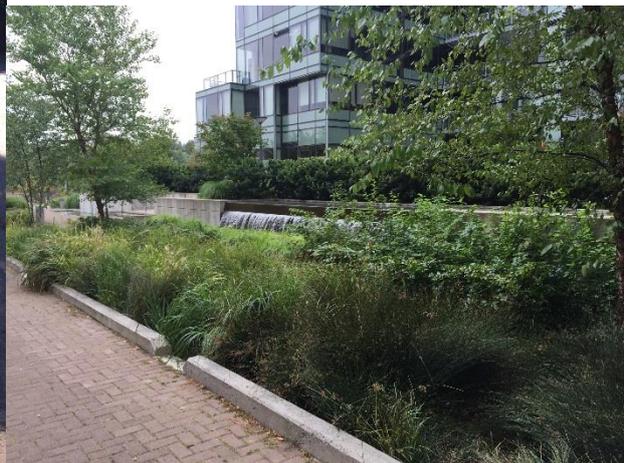
• The Fields Park



3つの公園のうち最もウィラメット川寄りの公園である。広い芝生の空地を設けているのは遊びの空間でもあるが、災害時などの避難場所としても有効であるとの印象を受けた。

同市の包括プラン 2035 でも言及されている「自然を生かしたインフラ」いわゆるグリーンインフラは、樹木、自然を残したエリア、草の生い茂った湿地帯そして空地といったものである。これらは洪水、地滑りのリスクを減少させ、またヒートアイランド現象からのインパクトを減らし都市を涼しくする効果があるとされている。

ポートランド市では「緑道・遊歩道 (greenway)」、「habitat corridors (生物居住回廊)」といった考え方で、通りが大きな樹木で覆われたり、道路脇の駐車スペースを雨水浸透するよう植栽空間として利用 (写真) する等の整備が進められていた。



狛江市でも雨水浸透ますは比較的早期から整備を促してはいたが、後発の小金井市に追い越され、整備率で大きく水をあげられてきた過去がある。実際に整備率と豪雨時の下水道にかかる負荷の相関を定量的に捉えることがまず求められるが、時間雨量 50mm を大きく上回る降雨が珍しくなくなって来た現在、このようなグリーンインフラについて真剣に考えるべき時に来ているのではないだろうか。

## South Waterfront Greenway

現在、ポートランド市の中でも環境に配慮した街区づくりが行われているとの事で訪ねたのが、ウィラメット川沿いの South Waterfront 地区である。



この地区ではかつて工場排水によって汚染されたウィラメット川の自然を再生し、川岸の生物多様性も回復させるべく一部人やペットの立ち入りを禁止してまで徹底した事業を行っていた。



エコトラストビル (Jean Vollum Natural Capital Center 写真右。)

このビルはポートランド市計画・環境局の職員である Radcliffe Decaney さんに紹介され訪ねた。1895年に建設された建物は2001年に再活用され始めた時、パシフィックノースウエスト地域における最初の LEED 認証のうちの金賞を授与された建物として、オレゴン州ポートランド市の持続可能な分野の象徴となった。

何故 LEED 認証の金賞を受けたかであるが、まず最初に言えることは既存のビルを再利用することでエネルギー消費を減らしたことである。次に別館としてあった建物を解体しその建材を再利用したということが評価された。さらに、グリーンで覆われた屋根を持ち、雨水浸透性に優れた舗装そして敷地内に降ったおよそ95%とも見積もられる雨水を溜め置く生物濾過装置としての雨水管理施設の具備である。土地利用の面でも人口

密集地域にあり、公共交通機関への近さを生かし、毎夏週一回ファーマーズマーケットの開催に敷地を開放している。内装資材も環境に配慮した木材を使用していることもあるという。

現在そのテナントも環境を重視した公民のテナントが入居している。アウトドア用品メーカーのパタゴニア、環境に配慮した食材を使用するピザ屋、コーヒーショップ、ワイルド・サーモン・センターや環境団体、ポートランド市計画・環境局等である。

#### 4. 地産地消を大切にすまちポートランド

書物などで読んだことはあったが、米国のベスト・エアポートにも選ばれたポートランド国際空港にはマクドナルドのようなナショナルチェーンが見当たらない。オレゴン州の地元資本ファーストが貫かれていた。街中で行列の絶えないレストランも地元資本の個店だ。アイスクリーム店、ドーナツ屋、タイ料理店等など。

その中で毎週土曜日にポートランド州立大学構内で開かれているファーマーズ・マーケットを視察した。8月13日も老若男女問わず多くの人出で賑わっていた。家族で出掛けて来ている人々も相当数見られた。出店側も有機栽培野菜あり、特産のベリー類を扱うところあり、花屋あり、畜産物（成長ホルモン不使用）を売る店あり、パンや焼き菓子を売るところありといった具合でまことに多彩であった。

先に触れたように、ポートランドではUGB（都市成長境界線）が設けられており、境界線外の農地から毎日新鮮な野菜等が豊富に供給される。





相前後するが、8月12日には毎年8月にウィラメット川の河川敷、トム・マッコール・ウォーターフロント・パークで開催される食の祭典 The Bite of Oregon を視察した。同祭典は今年で33回目を数える。米国ではオレゴン州は料理天国として知られており、またポートランド市はフランス料理を1950年代に米国に導入したシェフであり、また料理本作家でもある James Beard の生誕地である。(James Beard 賞は料理界の‘オスカー賞’とも言われている。)

単にオレゴン州産の美味しい物が食べられたり、飲めたりというだけでなく、訪れる客を楽しませる様々な工夫が凝らされていた。その一つが“Plates for the people”。40種類の各参加レストランによる料理が\$5又はそれ以下で食べられるというお徳な催し。また、地元産のビール、カクテル、ワインも豊富で観ているだけで楽しい。そして雰囲気盛り上げるステージ、料理の鉄人による競技、バーテンダーの競技会、子どもたちも飽きさせない特別なプログラムが用意されたキッズ・ゾーン等。

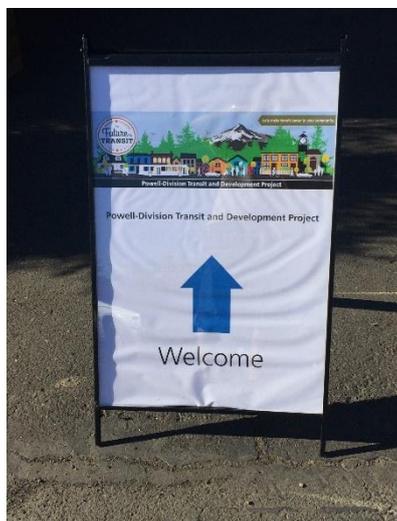
自分も地元産ヨーグルト等を試食させてもらったが、頬が落ちるような美味しさであった。案内、ボランティア、トイレの設置、ATMの設置等々、本祭典は今後、狛江でも多摩川の河川敷を活用したイベントを行う際にも大いに参考となるものであった。



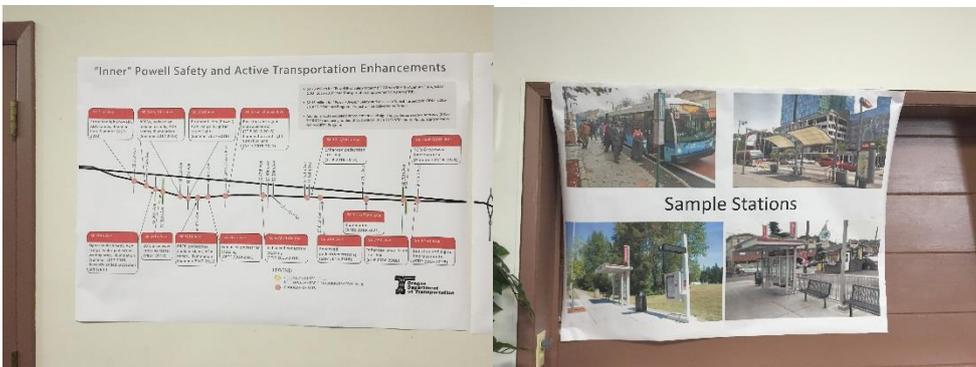
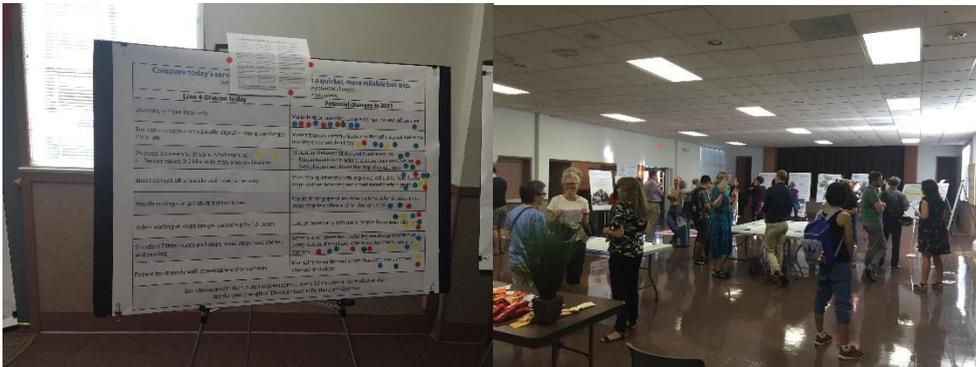


5. 住民説明会に参加して（施策の進め方）

今回は前出のポートランド市計画・環境局の Radcliffe 氏が手厚い説明をして下さり、8月15日に市の南東地域に新しい形態のバスを導入する方法をめぐる住民説明会が行われた際に参会させて頂いた。場所は地元の教会であった。何故、教会なのか聴くと場所代がかからないからだという。市役所等の公共施設で行わないかと問うと、そういう場合もあるとのこと。



今回の説明会は説明パネルを多く掲示し、ポートランド市、バスを運営するメトロ（広域行政体）から職員が参加し、パネルの前で住民らの質問に答えたり、補足的な説明をしたりしていた。



現行のバスシステムの長所、短所、新バス・システムの長所、短所が隠すところなく明示され、住民が的確に判断出来るよう情報提供が徹底されているとの印象を受けた。この場では討論会は行われず、後日改めて行うとのこと。これまでの経緯は深くはインタビュー出来なかったが、一度計画していた通り（Powell Street）にバスを通すことは道路の幅員の関係から断念し、現在の計画の通り（Division Street）に変更したとのことであった。変更不可能な計画ありきではなく、あくまで住民ファーストが徹底されていると感じた。また、会場にはバスのステッカーやお茶菓子も用意されており、リラックスした雰囲気になっているのが印象的であった。

【番外編：Pioneer Courthouse Square（パイオニア・コートハウス・スクエア）のレンガ】

ダウンタウンにあり、ポートランドの居間（英: Portland's living room）<sup>14</sup>の愛称のあるパイオニア・コートハウス広場。ここは一面5万個に及ぶレンガが敷き詰められている。目を見張るのはそのレンガ一つひとつに市民の名前が刻まれていることだ。何故、このようなレンガが敷き詰められるようになったのだろうか。その理由が知りたいと思ひ調べてみた。



オンライン百科事典の Wikipedia によると、次のような説明があった。少し長くなるが引用したい。

パイオニア・コートハウス・スクウェアの名称は、この広場のすぐ東に所在する政府建築パイオニア・コートハウス（1875年竣工）に由来する。

広場の歴史は、市がセントラル・スクール所在地周辺の土地を購入した1856年より始まる。1883年、ノーザン・パシフィック鉄道の延伸を受けて大規模なホテルの建造計画が承認され、同校は移転した。景気衰退による遅延を経て、1890年に8階建てのポートランド・ホテルが同地に完成した。<sup>[a]</sup>ポートランド・ホテルは、20世紀前半のポートランドにおける社会事業の中核的存在を担っていたが、1951年に取り壊され、2階建ての駐車場が建てられた。ポートランド・ホテル時代のアーチ道やゲートワークは現存しており、パイオニア・コートハウス・スクウェアの南側に今日でも確認することができる。

1970年代初頭、ポートランド中心街の基本都市計画として同地に公共空間を建設する案が提出された。1975年、ポートランド市長のネイル・ゴールドシュミットは百貨店のマイヤー&フランクが駐車場として用いていた土地の買収に乗り出し、駐車場の問題を解消した後、見事に説得に成功した。<sup>[a]</sup>1980年初頭になると、後にパイオニア・コートハウス・スクウェアとなる広場のデザインが募集された。162件の案が提出され、ニューヨーク市、フィラデルフィア、サンフランシスコ/ロサンゼルス、ボストン、ポートランドの各都市の企業から1件ずつ、合計で5件の最終候補が選出された。その後、ウィラード・マーティンが主任設計を務めるポートランドのチームが勝利を収めた。マーティンらのデザインは、1981年のプログレッシブ・アーキテクチャー誌から "Architectural Design Citation" に選ばれた。

デザインが決定すると、今度は資金問題が表面化することになる。ポートランド市長のフランク・イヴァンシーは、「開放型」の公共空間が浮浪者の溜まり場になってしまうことを懸念し、ポートランド中心街に拠点を構える一部の企業所有者や影響力のある市民を、新たに決まったデザインの反対派に導いた。当時テレビで政治評論家を務めていたトム・マッコール前オレゴン州知事は、憤慨しながら次のように述べている。

数人の影の権力者によってあの全米規模のデザイン競争の結果が無意味と断じられたことをオレゴニアンが知ったら、彼らの多くはさぞやショックを受けるだろう…。

広場建設の費用として、土地買収に 300 万米ドル、建造物や設備の設置に 430 万米ドルが必要となった。これは反対派が広場建設計画を白紙に返すのに十分な額であった。マーティンは他の建築家やボランティアを協力して、図案化した広場の設計図を敷地そのものに描画し、反対派による工事の遅れに大衆の目を向けさせた。この運動を受けて、ポートランド市のチャールズ・ジョーダン理事、マイク・リンドバーグ理事は市民を募って「フレンズ・オブ・パイオニア・スクウェア」という団体を結成し、名前を刻んだ 5 万個の煉瓦の売り上げから 75 万米ドルの資金を調達し、この計画の救済に貢献した。そして 1984 年、パイオニア・コートハウス・スクウェアが完成した。

1. [△ “Pioneer Courthouse Square”](#) . Project for Public Spaces. 2007 年 5 月 29 日閲覧。
2. [△ “Portland Hotel, 1890”](#) . Oregon Historical Society. 2008 年 5 月 15 日閲覧。
3. [△ “Pioneer Courthouse Square”](#) . Portland State University Nohad A. Toulan School of Urban Studies & Planning. 2007 年 5 月 29 日閲覧。

狛江市でも狛江通りにあるセントラル商店街のレンガ敷きが住民の出資によって整えられたことはあまり知られていない。当時、カラー舗装をすればと言ったら、アスファルトにペンキでも塗るのか？と言われたという。それほど、インターロック式のレンガ敷きは珍しかったらしい。そのレンガも厚さが他所よりも厚いものを使っており、30 年経った今でも壊れたレンガは一つもないという。セントラル商店街の方々は様々なところへ視察に行き、当時出来る最高のものを完成させた。身近なところにもあったのである。

## 6. おわりに

今回、短い日数でポートランド市の多くを視、理解したとはとても言い難い。まだまだ、視るべきところ、会うべき人がいるのだと思っている。

ポートランドのまちを歩けば、ホームレスの人々や見るからに経済的には厳しい状態であろうと思われる人々も見かける。今回は行くことが出来なかったが、郊外には移民が多い地域、まだ道路が舗装されず歩道も整備されていない場所もあるという。毎年 2 万人の人が新しく移り住み、住宅も明らかに不足している。すべてが理想的というわけではない。しかしながら、ポートランドの人々、行政が力を合わせ、新しい、他とは違う豊かさを体現すべく奮闘して来たこと、またこれから未来に向かって奮闘して行くに違いないことは実感出来た。彼らは自分たちに誇りを持っている。“Wired”という言葉がある。英語で「一風変わった」「風変わりな」といった意味らしい。ポートランドの人々はこの言葉を好むという。市の Radcliffe 氏には自分たちにはスカンジナビアン的なところがあるとも言っていた。米国にありながら、米国の他の街とは違う方向を志向するポートランド。この街が今、全米で住みたい街の最上位に来ている事実。特に若い米国人がポートランドを好むというのは私たちに新しい未来の到来を告げているのかもしれない。